

小学生の部

第49回子規顕彰小中高校生俳句大会で7,768句の応募の中から選ばれた、グランプリ4句と特選130句のうち、小学生の部の作品を紹介します。※●は複数の選者に選ばれた句。( )内は学校名・学年(敬称略)

小学校1～3年生の部

●グランプリ●



卷木 明登 (椿小3年)

夏休みに家族みんなで海に行き、泳いだり、カニ取りをしたりしました。そして、空を見上げると、入道雲が飛び出して胸を張っていて、むくむくと勢いがあるように見えそれを句にしました。まさか、特選になるとは思いませんでした。とてもうれしかったです。

むねはってぶわんとでてくるにゆうどう雲

中尾 順子 選

むねはってぶわんとでてくるにゆう どう雲 卷木 明登(椿3)

われまいと棒をはじいたスイカかな 山岡 美穂(興居島3)

はなつきのきゅうりがごろりだいいどころ 倉田 快晴(垣生1)

ぼくの口空さく花火にぱつと開く 大村 優太郎(椿3)

田植えしてみんなおそろいどろくつ下 中山 みちる(生石3)

すいえいでいちびょうもぐれたまたもぐる 日高 海吏(河野1)

風かおるしゃんがいつぱい校長室 信藤 悠介(北久米2)

五月晴れひざすりむいてほけん室 清水 柑那(北久米2)

まだ青いトマトに雨のつぶ光る 大西 由希斗(附属3)

むねはってぶわんとでてくるにゆう どう雲 卷木 明登(椿3)

のらねことべんとういっしょに春のうみ 田中 陽大(双葉2)

高山 佳子 選

高須賀 智子 選

柴川 智恵子 選

吉見 香奈子 選

小学校4～6年生の部

●グランプリ●



井口 遙統 (清水小5年)

待ちに待った夏休みの家族旅行。楽しい旅を想像し、旅行の本を見ながら、行ってみたい所にどんどんふせを貼り付けていき、気が付くと、本はふせんでいっぱい。その本を見て、家族で大笑い。そんな楽しかった思い出を句にしました。この賞を頂いて驚き、忘れられない思い出になりました。

風かおるふせんだらけの旅の本

矢野 裕司 選

ばあちゃんと言話読む夜遠花火 富岡 志恵菜(附属5)

台風風があやつる鳥の群れ 川上 心愛(味酒5)

風かおるふせんだらけの旅の本 井口 遙統(清水5)

切りたてのスイカのかおり午後の風 池内 尊昂(たちばな6)

分数にせみはいっそう強く鳴く 池田 玲翔(雄郡6)

ひまわりの姿勢のよさを真似てみる 越智 碧(和氣5)

息のんで夕焼け見ながら父を待つ 林 優吾(雄郡6)

茨本 里子 選

大久保 礼子 選

向井 京子 選

矢野 三佳里 選

夏休みはけなくなつたくつ二足 北村 俊貴(荏原6)

糸トンボ雨つぶよけて右左 山田 悠登(湯山5)

ペダルこぐ背中にエールせみの声 青木 秀悟(道後5)

風かおるふせんだらけの旅の本 井口 遙統(清水5)

夕立がトマトぬらしてはしりさる 里見 綾華(久米6)

飛び入りで一步遅れのぼんおどり 山本 峻也(たちばな5)

水風呂が僕を待つてる午後六時 串山 謙士郎(和氣6)

夏休み虫とりかにとりさかなどり 大喜田 渚月(さくら3)

せんたくのたおるくるくるなつのかぜ 陸野 永彩(堀江1)

夏休み虫とりかにとりさかなどり 大喜田 渚月(さくら3)

今年ね八十八夜がたんじょう日 菊岡 大志(和氣3)

五月晴れひざすりむいてほけん室 清水 柑那(北久米2)

のらねことべんとういっしょに春のうみ 田中 陽大(双葉2)

水風呂が僕を待つてる午後六時 串山 謙士郎(和氣6)

むねはってぶわんとでてくるにゆう どう雲 卷木 明登(椿3)

ひまわりの花は上むきしらんぶり 小原 菜々(伊台3)

ガーベラがくるくるまわってはるのかぜ 岡本 瑛麻(石井北2)

まけたのかつのがまがつたかぶと虫 島田 希(東雲2)

どんぐりにまわれまわれとねがいかけ 熊 玖結美(垣生2)

弟のさんぼみやげのねこじやらし 天野 翔太(湯山3)

あめつづくせみのさみしさきこえるよ 宮井 愛華(石井1)

ほつべにチューあかちゃんにそつとうちわかせ 河合 茉織(附属1)

さらのうえうらにわそだちのなつやさい 中山 実子(正岡1)

五月晴れひざすりむいてほけん室 清水 柑那(北久米2)

シロップがこぼれスカートなつもよう 福原 奏(久枝2)

よくわらいすぐなく妹あせつかけ 岡部 奏(三津浜2)

いろいろなくにへたとびするなつのもくも 定行 穂希(八坂1)

田植えしていつぱいよごれてほめられた 宮田 晃佑(石井3)

古民家の緑のカーテン家食らう 久保田 隼斗(垣生6)

パチパチと手を打つ弟かと踊る 只木 萌衿(道後5)

花火背に迷わぬようにつかむすそ 吉松 晃(湯山6)

どんぐりのステップ手伝うつむじ風 中川 涼子(生石6)

分数にせみはいっそう強く鳴く 池田 玲翔(雄郡6)

合奏中音を止めたらセミのソコ 大野 ひかり(道後6)

かい談を読みふけても暑いまま 山口 絵里奈(湯山5)

れんこんの穴からのぞく青い空 濱田 唯人(難波3)

すきつぶでみんなあつまるぼんおどり 蔵本 さくら(垣生1)

三時間電車ですごすまなつの日 藤井 優奈(湯山2)

かたつむりとうめいいとみらしるべ 松木 孝太郎(北久米1)

ぼんやすみいとこのまねしてはかたべん 仙波 栞理(北久米3)

なきやんだせみのしずけさ雨を知る 野村 明希(粟井3)

あじさいのきれいなブルーをえがきたい 伊藤 世莉(石井北3)

湯の霧が夏の夜にでて涼をみる 岡本 大雅(附属4)

青すすき未来未来と歌ってる 錫村 茉生(附属5)

イライラの心と一緒に割るスイカ 山崎 汐里(椿5)

庭先に誰か来たかな夏野菜 池内 翔太郎(河野5)

清風に吹かれてつばめと胸を張る 忽那 治英(生石6)

雷鳴や闇のゴジラの牙のごと 岡井 空(素鷲5)

兄の声生き返るかな庭胡瓜 宮川 遼(東雲6)

# 中高校生の部

第49回子規顕彰小中高校生俳句大会で7,768句の応募の中から選ばれた、グランプリ4句と特選130句のうち、中高校生の部の作品を紹介します。※●は複数の選者に選ばれた句。( )内は学校名・学年(敬称略)

## 中学生の部

### ●グランプリ●



長友 豊  
(勝山中3年)

夏休みの初め、水泳部を引退する前のこと。「受験生の夏」は、部活動にも勉強にも力を注がねばならず、大変な日々でした。そんなある日、自宅で宿題に取りかかったら、ふやけた手からほのかに刺激臭がしたのです。プールの香りは僕にとって夏の代名詞。今この一瞬を言葉に残したい、と思って作った句です。

シャーパーンを持つ手に残るプールの香

酒井 弘子 選  
薔薇の花針を光らせ生きている  
井上 綾乃(南第二2)

尾後 千恵 選  
母のむく桃の香りや午後三時  
三宅 みなみ(南第二1)

武田 香織 選  
海パンの名前ひらがな見つけられ  
田畑 優次郎(南3)

渡部 和寛 選  
シャーパーンを持つ手に残るプールの香  
長友 豊(勝山3)

母と立つキッチン狭し夏の夕  
山本 彩寧(南2)

川べりのトンボ楽譜のごとく飛ぶ  
小山 優唯(雄新1)

入道雲スコアボードも動かない  
吉金 亜希子(雄新1)

帰省して爪塗りながら語る姉  
久門 新菜(北条南2)

## ●奥村 幸二 選

霊園の空引き裂かれたまま灼くる  
福原 音(県西2)

夏の雲ゆらく平和に何思う  
三好 悠太(県西1)

手のひらのしわを数える蝸牛  
武智 康介(久谷3)

流れ星志願校名やや長し  
平山 真奈美(南第二3)

母と立つキッチン狭し夏の夕  
山本 彩寧(南2)

流れ星志願校名やや長し  
平山 真奈美(南第二3)

夏の風吸い込んで吹くクラリネット  
秋川 実穂(勝山3)

行くなよと朝顔の蔓車輪止め  
中原 瑞基(鴨川3)

後悔を片陰で抱き帰り道  
長尾 美都里(附属2)

真つ黒な上靴洗う夏休み  
山本 彩名(桑原2)

首のひだ波うつカバヤ月明り  
中矢 温(愛光3)

一日がふわふわ進む夏休み  
山内 遥歌(三津浜1)

会うたびにトマトを渡すおばあちゃん  
松本 琴香(小野2)

向日葵のぶれない心道しるべ  
福田 美南(鴨川3)

陽炎が我にもものいう交差点  
合田 晟祥(附属3)

扇風機閉じたノートをまた開ける  
尾野木 美緒(旭1)

星月夜新品のギターひいてみる  
河端 美法(済美平成2)

ラジオでは渋滞予測終戦日  
渡邊 滄生(東1)

ソーダ水空想癖の処方箋  
三瀬 未悠(椿2)

関数のゆるきカーブや雲の峰  
小嶋 佑哉(桑原3)

ペダルこぎ一気に夏の雲に乗り  
露口 隼輔(久米2)

玄関のすだれの陰に小鳥二羽  
小立 春人(中島3)

寂しげにバスを見送る石童子かな  
毛利 陽菜(津田2)

## 高校生の部

### ●グランプリ●



矢野 善大  
(松山工業高2年)

製図の授業で終わらなかった課題が夏休みの宿題となり、部活動後の昼から、友達と一緒に図面製作を行いました。締め切っていた製図室は非常に蒸し暑く、全ての窓を開け放って風通しを良くしたのですが、つい図面の上に汗を落としてしまい、その瞬間を句にしました。グランプリに選んでいただき、ありがとうございました。

設計の図面に落ちる汗一つ

## 高岡 周子 選



## 玉井 翠陽 選

## 高石 幸平 選

## 江崎 紀和子 選

お問い合わせは、(教子規記念博物館) 931 5566・FAX 934 3416

## 福谷 俊子 選

ほたるぼたる私はなれぬその光  
小野 日歌里(附属2)

上弦の月やキリンは眠らない  
平田 彩乃(愛光2)

七月の夜空に響けアンコール  
藤田 奈央(伊予2)

自らが病んで気が付く親の情  
仲神 朋希(松山南1)

かき氷人それぞれの色がある  
伊賀上 実(松山工業2)

秋の雲すぐ小さくなる白チヨーク  
二川 優(松山中央1)

甘柿の丸さ火星の近づきぬ  
桐木 知実(松山東1)

練習の終わりに校歌後の月  
兼本 流来(松山聖陵1)

立ちこぎで夏の坂道駆け上る  
山本 修史(松山工業2)

膨らんだ入道雲と僕の夢  
水口 亜弥(松山工業1)

制服の色淡くなり夏に入る  
本田 詩央理(聖カタリナ2)

入道雲母の怒りのパロメーター  
金井 智美(伊予2)

初日の出いつもここから歩き出す  
平山 巴菜(松山商業3)

終戦日祖母の話に正座する  
大串 果歩(附属2)

夕立や動物柄のバス走る  
石丸 雄大(愛光2)

綿菓子の色まきとっている夜店  
柚山 泰成(附属2)

夜通しの百物語汗ぐみて  
小野 晟奈(伊予2)

夕立のかばんを傘に帰る道  
大野 蒼生(松山城南3)

働き者かかしの背中父のよう  
森末 瑞希(松山南砥部分校1)

蝉時雨スコアボードに0並ぶ  
長谷川 智大(松山聖陵1)

送り火の煙が混じる空の色  
宮崎 里穂(松山中央1)

上弦の月やキリンは眠らない  
平田 彩乃(愛光2)

夜通しの百物語汗ぐみて  
小野 晟奈(伊予2)

蝸牛コンクリートを食べるよう  
仙波 泰(松山工業3)

かわせみの刹那の水面水しぶき  
池田 千尋(松山工業3)

設計の図面に落ちる汗一つ  
矢野 善大(松山工業2)

山椒魚次の呼吸で龍となる  
松下 高宏(県西4)